

# 地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

出前講座チームに聞く

## 東京の小・中学校で「マジカルバナナ」

東京でのオリンピック開催もあと2年に迫ってきました。世界の不穏な動き、開催国としてのいろいろな不安など、一般市民としては「大丈夫なのだろうか」と思わずにはいられません。でもやって来ます。昨年、地球の木が、東京都のオリ・パラ教育の一環として都内の小・中学校に招かれ、「マジカルバナナ」を出前講座してきたというので、12月末チームメンバー3人に集まってもらい話を聞きました。

### Q オリ・パラ教育って?

東京都が今度の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」を、子どもたちの人生にとってまたとない重要な機会ととらえ、全公立学校で推進している教育。学んで欲しいポイントに①ボランティアマインド②障害者理解③スポーツ志向④日本人としての誇り⑤豊かな国際感覚の5つを挙げています。具体的には、様々な体験学習の機会を与えようと、外部団体・機関(大使館や領事館、JICA、ユニセフ、また教育支援プログラムを持つNPOなど)の連携協力のもとに行なわれます。

### Q どうして地球の木が選ばれたの?

NPOをつなげる役目をしているJANICの仲介で地球の木に話があり、承諾しました。そして各学校に配られる冊子に地球の木も掲載され、それを見た1中学校、3小学校が選んでくれたというわけです。私たちはいくつかの出前講座メニューを持っていますが、是非オリジナルなものを、ということで「マジカルバナナ」で参加することになりました。たくさんのプログラム名が並ぶ中、「マジカルバナナ」はダントツ魅力的な名前ですが、身近な果物バナナがどこでどんな人たちによってどんな風に作られているのか、私たちの「買う」という行動が世界とどうつながっているのか、それらを気づかせ考えさせるのが狙いです。

### Q 小学校への出前講座は、近年あまり聞いていませんがどうでしたか?

昨年2月に三鷹市の中学校(1年)と中野区の小学校(5年)に、11月に練馬区の小学校(5年)と文京区の小学校(5年)に行きました。なかなか大変でしたよ。授業が1時間目で、朝の5時に家を出たこともありました。小学生向けに流れを見直したり、ミ

## CONTENTS

■ 東京の小・中学校で「マジカルバナナ」	1~2
■ 支援地からネパール	3
■ 支援地からラオス	4
■ よこはま国際フォーラム2018	4
■ 支援地からカンボジア	5
■ 「もったいないキャンペーン」これからもよろしく	6
■ 地球の木と私	6
■ 気仙沼だより その20	7
■ 新しいパンフレットができました	7
■ 活動日誌	7
■ INFORMATION	8

## 「マジカルバナナ」



グループでまとめを発表

二お芝居の台本のせりふを短くするなどの準備もしました。やはりクイズや遊びっぽいものが好きですね。反応も素直で、役を取りっこしたり、「水牛って?」「大農園って?」などと聞いてくる。こちらも次の時には「〇〇ヘクタールっていうと文京区と比べてこの位よ」と説明を加えるなど、新鮮な楽しさがありました。「自分たちと全然違うくらいで大変そうだなあ」と思ったり「それってブラック企業じゃん」と発言する。小学生への出前講座は、世の中のあれこれに「これって公平じゃない」とか「どうしてなの?」とか疑問をもつ種を、子どもの中に蒔くことができているのかもしれない、改めて思いました。

### Q 地球の木の出前講座の歴史は長いですが 始めてからどのくらいになりますか?

最初に出かけたのは、2000年で鶴見の市場中学校です。ですから今年で18年目ですね。「マジカルバナナ」は地球市民教育(開発教育)教材として、地球の木がその前年に完成させ販売を

始めています。地球規模の問題を知り、考え、どのようにしたら公正な社会を作っていくか、それをどう自分の行動につなげていくのか。それを学ぶのが開発教育ですが、その教材を教育関係者ではなくNGOが作ったことは当時画期的だったんですよ。2002年から学校で「総合的な学習の時間」がスタートしたこともあり、国際理解講座の出前はその後、緑区の三保小学校、鎌倉女学院高等学校、南区の平楽中学校と続き、講師(参加型学習のファシリテーター)として私たちも腕を上げていきます。授業で使った教材はその他に「貿易ゲーム」「ネパール・タラー族の家族ゲーム」「世界が100人の村だったら」「未来の食卓」「森を守る・くらしを守る」などがあります。

**Q 学校での授業を成功させるには、先生との話し合いや準備が力ぎかと思いますが、印象に残ったこと、苦労など聞かせてください。**

始めのころは、ワークショップという参加型学習の形態やNGO団体への理解がまだ足りない学校もあり、担任の先生と私たちとの手探りの取り組みでしたね。地球の木側も大学生がファシリテーターに加わるなど、活気のあった時代です。

平楽中学校と鎌倉女学院高等学校への出前講座は当初から現在まで毎年続いています。すごいでしょ? 平楽中では先生方全員がファシリテーターになれるよう、私たちが協力して職員研修をしたこともありました。海外にルーツを持つ生徒が多い学校ということもあり大変熱心で、国際学習のモデル校です。ある時「先生だけでできるのだからもう私たちが来なくても良いのでは」と言ったら「教える専門家ではなくNGOから直接話を聞くことに意義がある」と言われ、開発教育の原点を思い出しました。鎌倉女学院では長年の成果が出て国際関係の大学や仕事を選ぶ生徒も出てきていると聞いています。



ロールプレイって楽しいね



座談会の様子

**Q 来年度は生活クラブ生協の「エッコロ講座」でも出前講座の計画があるそうですね。**

生活クラブ生協の組合員が入る助け合いの組織がエッコロ共済で、「エッコロ講座」は組合員の福利厚生とネットワーク作りのために提供される講座。子育て、食、健康などをテーマにたくさんの講座があります。地球の木はこれまで「マジカルバナナ」だけで参加していましたが、来年度からはその他5つの出前講座メニューも加え出番を待つことになりました。生協の若いリーダーたちが興味を持ってくれることに期待したいですね。

**Q お話を聞いていると大変な分、やりがいもありとても楽しそうです。後に続く出前講座の担当者がぜひ出てきて欲しいですね。何か案はありますか?**

うーん、とにかくいろんな所に出かけて行って「これ楽しいよ」って話すことから。興味を持ってくれる人は案外いるものです。宣伝が足りていないのも確かかもしれません。

**聞き取りを終えて** 予定していた時間が足りなくなる位、みなさん生き生きと話してくれました。その後すぐ1月末にはオリ・パラ教育でもう1校、国分寺市の小学校(5年生)からも出前講座の依頼が入りました。地球の木の大変な活動の一つ、地球市民教育「出前講座」。次世代にうまくバトンを渡したいものです。

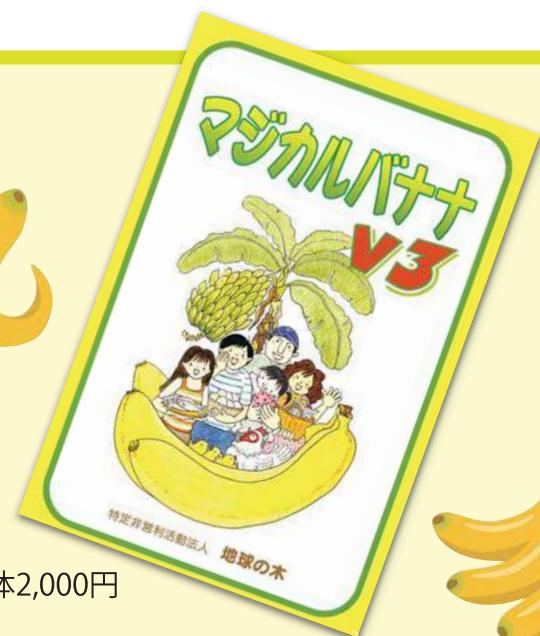
(会報作成チーム 斎藤 和子)



マジカルバナナ  
ベストセラーではないけれど  
ロングセラー!

「マジカルバナナ」販売しています。学校や地域の集まり、子どもと一緒にサークルなどで楽しく使えます。詳しくは地球の木のホームページからどうぞ。

1キット本体2,000円




## ムクさんはみんなのリーダー

11月の現地調査の時、支援地の村々を案内してくれたのは、ムク・マヤ・タマンさん。名前が示すとおりタマン族出身の、32歳のローカル・ファシリテーターで、14歳と9歳、2人の男の子のお母さんだ。

約束の時間、地域の女性リーダーがBPロード(街道)沿いにオープンしたラマホテルの前庭で待っていると、バイクで颯爽と登場した。現地調査の3日間は、私たちと一緒に4輪駆動で村々を訪問したが、普段はバイクで移動するという。起伏に富んだ山道、一度で曲がり切れないカーブもあり、そんな時は、崖下を見ないようにして、ただ無事を祈るばかりの私たちをよそに、ムクさんは、隣に座ったSAGUNスタッフとあしゃべりに興じている。

現地の人々が話すタマン語を母国語とし、ネパール語はもちろん日本語も話せるムクさんの存在は大きい。ムクさんは2014年に関西のNGOの研修生として日本で一年暮らした経験があるので、日本から訪問者がある時は通訳として活躍している。今回も、ムクさんのお蔭で村の人々とのコミュニケーションがとてもうまくいった。

ムクさんは、来日前からお母さんグループのリーダーとして、女性たちの地位向上活動をしていたので、日本滞在中に農業や保健衛生の研修だけでなく、女性組合などと交流して、専門分野を磨いた。



ムクさんバイクで登場



換金作物として成長の早いニンニクの葉の部分を収穫

2015年、大地震がネパールを襲った後は、ともかく食べていかなければならぬということで、ニンニクの栽培に力を入れ、収量を大幅に上げる努力をしたそうだ。ガーリックハウスと呼ばれる、収穫したニンニクを干したり、保管する倉庫もあった。

今回、一緒に行動して感じたのは、ムクさんのスマートさ。とても機転が利く。毎日砂ほこりを浴びて山々を移動する私たちを思いやって、現地調査の最終日、「お風呂」を用意してくれた。お風呂といっても風呂桶があるわけではない。薪で大なべに大量のお湯を何杯も沸かし、温かいお湯を浴びることができた。とてもありがたかった。日本に滞在して、お風呂を体験し、日本人がお風呂好きと知ってのおもてなししだったのだろう。きっと、こんな気遣いを村の人々にも提供しているのであろうと想像した。

(ネパールチーム 乳井 京子)

## よこはま国際フォーラム2018

2月3日・4日  
於: JICA横浜



スライドにくぎ付け

の力が社会を変える~」と題して講演を行なった。

23年前に出会ったネパール女性ニルマラさんの「教育こそ一番重要」という言葉に突き動かされて、当時ほとんど読み

世界の様々な地域への支援や、多文化共生に関心のある人がこれほどいるのかと思われるほど、受付には人の列。約50団体による講座の中で、地球の木は「激動のネパール調査ルポ~女性

書きのできなかつた女性たちのために識字教室を始めたのを皮切りに、現地に何度も足を運び信頼関係を深めながら、またその間、政変、大地震といった事情をも乗り越えて、支援を行なってきた様子が話された。

座席が無くなるほどの盛況で、高校生が半数近く、自分がこれから生きていく参考にしたくてここに来たという女性もいて、何かを吸収して帰るぞといった気迫が感じられた。

参加者からは「教育が人に与える影響の大きさを感じた」「ネパールの収入創出プログラムのような支援が日本でもシングルマザーや貧困層にも広がっていくといいな」「デブラニ物語の紙芝居で識字教育の大切さがわかりやすかった」など多くの感想をいただいた。(会報作成チーム 浜辺 美英子)

 from Laos

## 新しいプロジェクトは村人の視点を第一に



### 改めてラオスの概要を見てみると

ラオスは面積およそ24万km<sup>2</sup>(本州の面積とほぼ同じ)、2015年現在人口は約650万人、国土の約70%を山地が占める東南アジアの内陸国です。近年の経済成長はダム建設や鉱山開発、プランテーションなどの大規模開発に支えられています。

国民の多くは農村部で稻作などを主な生業としています。彼らは食料や生活必需品、それらを購入するための収入源として、森や川からタケノコなどの野菜、キノコ、魚といった自然の恵みを利用しています。そんな農村の暮らしはあるなか、大規模開発に際しては何の補償もなく村の土地が取り上げられたり、森林の伐採、水質汚染、ゴミの投棄などで環境が破壊されたりするなどの問題が起きています。

### JVCの取り組み

しかし、一党支配体制が人々の言論の自由に大きな制限となっています。このため住民がくらしや社会の問題を訴えたり、自分たちで組織を作り取り組んだりすることも難しく、法律も十分に整備、運用されていないのが現状です。

JVCは、こういった状況に対して、農村部の人々が自然環境とともに安心してくらせるよう取り組んでいます。サヴァナケート県はラオス中南部に位置し(地図参照)、平地が多くラオスの中でも水稻耕作が盛んな地域で、同時に森も多く残っています。ここで今年度中にもプロジェクトを本格的に開始する予定です。新規プロジェクトでは、村人が村の土地と森や川などの自然を主体的に守り、管理・利用していくようになることを目指しています。

 from Cambodia

## CWCCプロンペン事務所訪問



地球の木のカンボジアでの支援先である“サバイバー(※)のためのシェルター”を運営するCWCCは、Cambodian Women's Crisis Center という名称の通りシェルターの運営だけではなく、1. 保護、2. 防止、3. 提唱を3本の柱として幅広く、危機的状況にある女性たちの支援を行なうNGOです。

CWCCは、カンボジア各地4ヵ所に事務所を構え、3つのシェルターがあります。昨年10月にそのひとつ、プロンペンのごく普通の街並みの中に事務所はあります。

23名のスタッフがここで活動しています。当日はディレクターを含め6名の方とミーティングを持つことができました。大きな看板もなく、目立たない事務所ですが、年間約300人の女性が助けを求めて訪れるということです。その中で50~70%ものサバイバーが、期間の長さは様々ですがシェルターに滞在するということを聞き、地球の木がシェルターを支援することの意味を確認しました。

ステップ1(保護)サバイバーの保護とサポート、シェルターはここに入ります。ステップ2(防止)被害の予防対策、教育、コミュニケーション啓発、カウンセリングなど。ステップ3(提唱)政府

や社会の監視と訴え、法律の近代化促進、国家レベルでの認識、汚職防止など。

女性の地位の低さ、急速な近代化と情報の流入、公務員の汚職と法律の近代化の遅れなど、カンボジアの女性を取り巻く状況には厳しいものがあります。CWCCが法廷闘争など専門家の支援を含め、広い視野で様々な課題の解決を図っていることが説明されました。

CWCC全体への支援の中で地球の木の支援金額は決して大きなものではありませんが、継続的なきめ細やかな支援に対する感謝の言葉をいただきました。  
(理事 植田泉)

※このシェルターに保護された人等、虐待など様々な困難な状況にあいながら生き延びている人のことをいう。

**6** 年前の2012年に初めてカンボジアの首都プロンペンに行ったとき、舗装されている道路はごく一部、屋台をひいて商売をしている人をよく見かけ、トウクトゥクとバイクの渋滞が日常の風景でした。5年後に再びプロンペンを訪ると、空港が大きくなっていることに驚き、車の数が増えていることに驚き、見上げるほどの高層ビル群に驚き、ここは本当にあのプロンペンなのだろうか、と思議な感覚を覚えました。街の発展についていけないのは私だけかもしれない、と心配になりましたが、地元の人たちと話をして、街の発展を喜んでいる反面、物価の上昇や開発に取り残された地域との格差などに戸惑いもあるとのこと。街は急に変わることができるても、人は簡単には変わらないので、プロンペンの人たちの思いに沿った変化であってほしいと思いました。  
(事務局スタッフ 竹内千佳)





# もったいないキャンペーン

## これからもよろしく!

地球の木の活動を支える財源は、会員の皆さまからの会費を主力に、クラフト販売などの事業収益、助成金、恒例の年末助け合い募金や災害募金など。また、財源の多角化として「もったいないを国際協力に」、通称、もったいない運動のキャンペーンがあります。

この「もったいない」の言葉の由来は仏教用語。それが「粗末に扱われて惜しい」などとその持つ意味が広がり、また環境を守る世界共通語「MOTTAINAI」として使われるなど、今や国際用語にもなっています。

地球の木は書き損じのハガキや未使用切手の寄贈を呼びかけ、これを「活動費として活かす資金に」という発想がキャンペーンとして結びついてスタートし、他団体の協力も得て本格化したのは3年前からのことです。この熱い願いは共鳴し、共感を呼んだのでしょうか。皆さまのご協力が大きな実績に結び付いています。

キャンペーンへの協力は会員をはじめ、地球の木と関連団体にある県内の生活クラブ生協や福祉クラブ生協の皆さんに呼び掛けいますが、この協力団体の存在が大きな力になっています。物品の対象は、書き損じの年賀、通常はがきをはじめ、切手、商品券、電話カードなど、更にアクセサリーなどの貴金属類と多種多様です。毎年地球の木事務局に届けられるその数は段ボール箱にして数個、点数にして数千点にも及びます。まず開封作業は事務局スタッフやボランティアの会員らが何日もかけて仕分けをします。はがきや切手は値段ごとに仕分けするので、



集まった物品を仕分けます

とても手間暇のかかる地道な作業です。切手類は後日、最寄りの郵便局に持って行き換金します。また、貴金属類は専門業者に鑑定依頼し、値段の付くものはそのまま時価で換金します。これらの一連の作業は開封から換金まではざっと数ヵ月かかります。

このように運動の趣旨が皆さんに理解され、数字的にもアップするという結果になっていますが、今後の課題もあります。それは、新たな共鳴、共感者の呼び掛けなどネットワークの拡大や常設の設置場所の確保、また、これと共に開封・仕分け作業のスピード化と効率を図るために新たなボランティアの確保などです。

これからも「もったいないキャンペーン」を続けるにあたり皆さまのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。  
(理事 野崎 俊一)

この2月で65歳となり、めでたく年金生活に突入しようとしてあります。思えば40代は地球の木のメンバーとしてカンボジアを3度訪れ、真っ暗な夜、水のシャワー、路上で寝る子どもたちに人間の強さを知り、コメ銀行や農村、漁村の協同組合など地域の自立も徐々に良くなる方向を向いていれば良しとし、かえって我が国、わが地域の精神的貧困を知らされるといった具合でした。地球の木の会員として会費を払うばかりだった15年の間に、世界では、紛争があさまらず、国内も「日本」しさを強調するばかりで異文化を受け入れて変容していく社会を良しとしない風潮が幅を利かせつつあるよう



す。なかなかに困難な時代へ進んでいるような気がしてなりません。地球の木の会員として、今できることは何かを考えていく時間が、これからできると思っています。まずは、新理事長のもと地道な地域活動と新鮮な活動アイデアを出せるよう頑張りたいと思います。「幸福度」は「富」だけでは表せません。地球の木の「自分たちの暮らし」を見つめ直す活動が、若い人々の間にも広がり、自分らしく生きることが多様性を認めることにつながり、究極には、いろいろな人種が混ざり合った日本になればいいなと思っている次第です。

(横浜市都筑区 小泉 恵子)

## 思わず歓声が！

Tree Seed前代表の高木さんは、運動不足の被災地の子どもたちのためにスポーツ活動の支援を行なっています。その様子をレポートしてもらいました。

今回の運動教室では、小学生から中学生までを指導しました。小学生は、低学年から高学年まで20～30人くらいを同時に指導するので、身長や体力レベルでグループ分けをして、それぞれたくさん動けることを重視して行ないました。

まずダイナミックフレキシビリティと言って、体全体を動かしながら柔軟性を上げ、全身を大きく動かす運動をしました。日頃したことのない動きや伸ばし方なので、足が軽く動くのが不思議な感覚で、子どもたちから歓声が上がりました。

後ろで見よう見まねで体を動かしていた見学の親御さんたちは、自分の体の硬さを理解したり、腰痛がある人は、腰が軽くなったと喜んでくれました。

次に、それぞれのスポーツで必要な動きを細かく分けて、段階を踏んでうまく動けるようにしていきました。縄



Tree Seed の高木さんは柔道の指導もします

ばしごのようなラダー、またマーカーやマイクロハーダルといった道具を使い、色々なステップや足の動きにより、動きの改善・習得をしてもらいました。子どもたちは、今までにしたことのない動きや道具を使うので、楽しいようでした。はしゃぎながら何回も繰り返し行ないたいようで、しっかり止めて

から指導しないと、話を聞かずに夢中になってしまうので大変でした。

中学生は、少人数の指導だったので、一人ひとり動きが良くなるようにアドバイスをしながら指導が行なえました。今の子どもたちは、股関節をうまく使えない子が多く、しゃがむことや中腰になるのが難しいようで、段階的に出来るようにして、全体的に動きをレベルアップしていくことが出来ました。

子どもたちは、出来なかった動きが出来るようになって嬉しいとの感想。また見学に来ていた親御さんからは、いつもの動きとは、見違えるように良くなつたので凄く驚いたと、大変感謝されました。

(Tree Seed 高木 裕治)

## 地球の木を紹介するパンフレットが新しくなりました

太陽系の惑星の中で唯一多様な生命が存在する地球。その地球で生まれ、生き、暮らす私たちがともにつながり、信頼が広がる社会をつくっていくために「地球の木」は、市民レベルの海外協力を行なってきました。地球の木の活動を多くの人にもっと知ってもらい、さらに支援者を増やそうとパンフレットを親しみやすく改訂しました。新パンフレットの表紙は、動物も植物も人間も笑顔です。内容は、地球の木の海外支援の特徴を明記、次に参加のためのアクションメニューを提示しています。神奈川から発信、世界とつながる地球の木をみんなで大きく育てていきましょう。(理事 大嶋 朝香)



## 活動日誌 (12月～2月 抜粋)

### 12月

- 4日 第6回理事会
- 8、9日 デポー展示会(つなしま)
- 11、12日 デポー展示会(東寺尾)

### 2018年1月

- 9日 第7回理事会
- 29、30日 デポー展示会(宮前平)
- 30日 報告会「激動のネパール調査ルポ」(平塚)

### 2月

- 1、2日 デポー展示会(ほんもく)
- 4日 報告会「激動のネパール調査ルポ」(みなとみらい)
- 5日 第8回理事会
- 12、13日 デポー展示会(つつじが丘)
- 14日 出前講座(国分寺市立第十小学校)
- 23日～3月4日 ネパール・スタディツアー
- 27日 臨時理事会

# 第19回地球の木総会のお知らせ

# 5月26日(土)午後

場所:横浜市社会福祉センター8F会議室

※詳細は同封の「第19回地球の木総会のお知らせ」をご覧ください。

幸せ分かちあい年末募金  
ご協力いただきありがとうございました

今年も会員の皆さまをはじめ、89名の方からご協力をいただきました。皆さまのあたたかい布気持ちに心より御礼申し上げます。

年末募金総額:493,875円

<寄付先別内訳>	
・ネパール 幸せ分かち合いムーブメント	57,000円
・ラオス 森林と農業プログラム	30,000円
・カンボジア DV／レイプ被害者支援	20,500円
・東日本大震災気仙沼支援	28,500円
・無指定	357,875円

※2017年にいただいた寄付の領収書を2018年1月末に発送いたしました。

ご不明な点がございましたら、地球の木事務局までご連絡ください。

地球の木カレンダー2018 ご協力いただきありがとうございました

今年は614部ご購入いただきました。カレンダーの収益は、  
ネパール・ラオス・カンボジアの支援に使われます。皆さまのご協力に心より御礼申し上げます。

# イベント情報

ワークショップ「ちょっぴり体験！ラオスの村の暮らし」

- 日時:3月29日(木)13:30~15:00
  - 場所:湘南生活クラブ生協小田原センター ホール  
(JR小田原駅からバス国府津駅行き、または国府津駅  
からバス小田原駅行きで「東高校前」下車徒歩2分)

ラオスの生活グッズを手にとって、ラオスの村の暮らしを想像してみませんか。村の森林伐採の現実と私たちの暮らしとをつなげて考えます。



## 地球の木講座

## 「今、知っておきたいカンボジアの話」

- 日時:4月7日(土) 13:30~15:30
  - 場所:なか区民活動センター 研修室1  
(JR根岸線「関内駅」徒歩7分)
  - 参加費:300円(コーヒー付)
  - 講師:米倉雪子(昭和女子大学国際学部国際科准教授)  
地球の木は設立当初からさまざまなプロジェクト支援でカンボジアに関わってきました。めまぐるしく変化するカンボジア社会でどのような協力ができるか、一緒に考えてみませんか。長年、市民活動を通して、カンボジアにかかわってきた米倉雪子さんにお話をうかがいます。

あーすフェスタかながわ2018

- 日時:5月19日(土)、20日(日)  
10:00～16:00
  - 場所:神奈川県立地球市民かながわプラザ  
(あーすプラザ)(JR根岸線「本郷台駅」徒歩3分)

多文化共生社会の実現に向けて、互いを理解する機会をつくるため毎年開催されています。今年で19回目を迎えます。世界の民族品、フェアトレード・グッズなどの販売、各国の料理を提供する世界屋台村が催されます。



地球の木のパンフレットがリニューアルしました。地球上のあらゆる国の人々が大人も子どもも笑顔で生きていたい。そのためには地球の木がめざしている

活動をカラフルな誌面と親しみやすい表現で“つなぐ・つながる”をコンセプトを作りました。同封した新パンフレットを手にとって見て、お友だちにもぜひご紹介ください。(T.K)



特定非営利活動法人  
**地球の木**